

二つの「終焉」の超克をめざして Overcoming Two "Ends"

2011年3月4日(金)13:00-17:00

同志社大学寒梅館 KMB211

参加無料(同時通訳あり)

日本は、2つの終焉を迎えようとしている。

第1の終焉は、日本的産業モデルの終焉である。日本は、グローバル化の速い潮流の中で、産業と雇用の担い手が「大企業」から「クリエイティブ企業のネットワーク統合体」になったことに気づくことなく、古い産業モデルの上を足踏みし続けている。しかもここ10年来、リスク挑戦への具体的な戦略を見失った結果、研究・開発で創造してきた多くの新技術を経済価値に変えることに失敗してきた。

第2の終焉は、「ムーアの法則」の終焉である。あと10年後、人類はムーアの法則の限界に辿り着き、半導体チップがポテトチップのようなコモディティになることが、夙に分かっている。その限界を超える技術への取り組みが、日米欧で始まりつつあるものの、日本では古い産業モデルがイノベーションのエンジンの登場を妨げている。

これら2つの「終焉」の先に何があるのか。はたして日本は、古い産業モデルから脱皮できるのか。さらには「ムーアの法則」終焉以後、だれが如何にサイエンス型産業のイニシアティブを発揮するのか。本国際会議では、未来への方向を議論するとともに、2つの「終焉」の危機を打開する新しい方法を導くことによって、さまざまな壁を乗り越えるべき「共鳴場」を提供したい。

PROGRAM

■ 開会にあたって 中田喜文(同志社大学大学院 教授 ITEC センター長)

Session1 未来を予見する新しい方法

山口栄一(同志社大学大学院 教授)
ブレークスルーを如何にして実現するか?

藤村修三(東京工業大学大学院 教授)
基礎研究は、なぜ必要か?

Session2 日本の周回遅れを取り戻せるか?

中馬 宏之(一橋大学イノベーション研究センター 教授)
半導体産業の国際競争力低下要因を探る:R&D ネットワークの視点から
コメンテーター:クレア・ブラウン(カリフォルニア大学バークレー校 教授)

Session3 半導体産業は「ムーア以降」にどう立ち向かうのか?

大野 英男(東北大学電気通信研究所 教授)
「ムーア以後」の半導体 LSI の新たなパラダイムをめざして
コメンテーター:丹羽正昭(筑波大学大学院 教授)

■ 閉会にあたって 山口栄一(同志社大学大学院 教授 ITEC 副センター長)